

平成24年度 教育行政評価 No1 (自己評価)

主要事業名	学校図書館の整備	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2) 生きる力の育成
個別施策	③ 読書活動の充実

2 事業概要

目的	児童生徒の自主的な学習活動を支援し、積極的な読書活動を充実させることにより、情報収集及び活用する能力が高めるとともに、豊かな感性や表現力を身につけることにつなげる。			
対象及び規模	対象	市内小中学校児童生徒及び教職員	規模	約5,700人

3 実績

<p>図書・学校図書館司書・新聞に係る地方財政措置額19,023千円に対し29,093千円予算化し、予算化率153%だった。高松小学校が子どもの読書活動優秀実践校として文部科学大臣賞を受賞し、県内から取組の発表依頼が多数あった。小学校の一人当たりの貸出冊数は10冊ほど下がり42.6冊だったが、読書量(みんなにすすめたい一冊の本事業)は増加した。しかしながら、中学校の読書量については、5%も下がった。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	読書量(みんなにすすめたい一冊の本事業)は年々増えているが、中学校に進学すると小学校の頃と比べ、大幅に減ってしまっている。学校図書館の運営は、学校の理解・協力が不可欠であるが、学校図書館司書の勤務時間の関係で、学校と意思疎通ができなく、サービスが低下してしまう。
改善策	小学校図書館サービスを充実させるとともに、中学校の学校図書館を整備し、継続的に読書への関心を持たせる。統一した学校図書館司書の勤務時間を学校に合わせ柔軟に対応する。

平成24年度 教育行政評価 No2 (自己評価)

主要事業名	学力向上の推進	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	① 基礎・基本の定着を図る教育の充実

2 事業概要

目的	鹿嶋市の地域性を活かして自分の生き方を創造し、それによって地域の人々と豊かな生活を築いて行こうとする「鹿嶋っ子」を育成するため、主体的に学ぶ意欲を持ち、達成感や充実感を味わいながら自らの課題を発見、解決できる力を育てる教育環境を整備する。			
対象及び規模	対象	市立小学校・中学校	規模	5,387人

3 実績

<p>個に応じた指導の充実を図り、ひとりひとりの能力を伸ばすために、質の高い専門性をもった人材の配置や、児童生徒へのサポートが必要不可欠であると考え。そのために、採用の際には選考試験を行い、採用後も特別な支援を要する児童に対する支援等の研修を行う等、採用した職員の資質向上も行った。AT、TTについても、学校の実態や必要性に応じて配置した。また、茨城県学力診断テストを実施し、その結果を十分に分析し、授業改善と個別指導に活かした。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	TT及びATの導入による成果や必要性は今後減少することはない。しかしながら、子どもたちの学力向上の面について、これまで以上の成果が十分に上がらないことも考えられる。AT、TTの勤務時間が5、5時間と短い時間の中で、教職員との情報交換や情報共有を密にとることが、困難になっている。
改善策	より効果的なTT・ATの個別支援や教職員間の情報共有、師範塾の研修講座を地道に継続して資質向上を図ることが重要と考える。不足する部分については、指導力向上やAT、TTの役割分担などについて更に検討し、打ち合わせ時間の確保をしていく。さらに生徒理解等に関する資料を作成・配布するなど、各学校でも指導・研修を行ってもらうことで資質の向上を図っていく。

平成24年度 教育行政評価 No3 (自己評価)

主要事業名	長期欠席児童生徒解消	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	2 学力の確実な向上
体系項目	(1) 小中学校教育の充実
個別施策	② 健やかな心身を育む教育の充実

2 事業概要

目的	子どもたち一人ひとりの学ぶ権利を尊重し、学校で学ぶ楽しさを実感し、学び合う仲間を得られるようにする。			
対象及び規模	対象	市内小中学校児童生徒及び保護者、教職員	規模	約8,000人

3 実績

<p>不登校等対策連絡協議会の開催及び欠席の多い児童生徒の相談個票を作成することにより情報の共有と援助指導の方向性をつけることができ、中学校1年生の不登校者の増加を抑えることにつながっている。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	学級や学校をどの児童生徒にも落ち着ける場所にしていくことが、長欠児童生徒の減少につながると言える。即ち、児童生徒の居場所づくり（学級づくり）について、研修を深めていくようにしていく。
改善策	小学4年から中学3年においてアンケートを実施し、学級の状態把握と対応策についての研修をもとに、児童生徒の居場所づくり及び絆づくりを行う。

平成24年度 教育行政評価 No4 (自己評価)

主要事業名	鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発信	担当	部名	教育委員会・市民協働部
			課名	教育総務課・生涯学習課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(1) 郷土理解教育の推進
個別施策	① 地域資源や地域人材の活用 ② 伝統文化の保護と継承

2 事業概要

目的	文化財や伝統文化の周知を通じて、郷土理解と郷土愛、郷土への誇りを醸成することを目的とする。			
対象及び規模	対象	市民	規模	66,449人

3 実績

<p>各幼稚園や保育園、小学校等へ配布した民話集を活用し、民話の普及活動の推進に努め、今年は43回の普及活動を実施した。郷土の歴史を理解してもらうため、小学生中学年から高学年を対象に鹿島神宮や塚原ト伝など地域の文化や偉人について学び、郷土愛の育成を図る。ミニ博物館やどきどきセンターでは鹿嶋の歴史に関する展示や伝統文化財（祭）の展示を行ってきた。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	語り部の会の協力を得て普及活動に努めているが、今後、語り部の後継者育成が課題である。
改善策	語り部の会の活動の周知を行うと共に、語り部の養成講座等の開設も検討していく必要がある。

平成24年度 教育行政評価 No5 (自己評価)

主要事業名	英語教育の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(2) 郷土理解教育の推進
個別施策	① 小中学校での英語教育の充実

2 事業概要

目的	英語を母国語とする英語指導手を各小中学校に配置し、日常生活で自ら進んで英語表現ができることを目標として、小学校1年生及び2年生は英語に親しむことを重点に、小学校3年生及び4年生は、英語表現に慣れることを重点に、小学校5年生及び6年生は、英語による基本的なコミュニケーション能力を身につけることを重点にしている。中学生は、小学校で慣れ親しんだ会話中心の英語教育から、ライティング力やリーディング力を含む総合的な英語力向上に努める。			
対象及び規模	対象	小学生及び中学生	規模	5,149人

3 実績

<p>社会や経済のグローバル化に対応できる人材の育成が喫緊の課題である中、「国際的に通用する実践的コミュニケーション能力」を身に付ける英語教育は必要不可欠である。小学校における英語教育においては精査されたカリキュラムに基づく指導が各校とも同様に実施されているため、他市に比べ英語教育の質が確実に保障されており学校による差も生じていない。また、中学校においては外国人講師の効果的・有効的活用がなされ、授業公開時には他市からの参観依頼も多い。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	「コミュニケーション英語」の指導については、外国人講師の指導力が大きく問われる。コミュニケーション英語の質や生徒一人一人の学びを保障するためには、中学校においてコミュニケーション力を高めるための指導法について工夫・改善が必要である。また、英検3級程度の力を身に付けさせるためには、書く力・読む力を含む4技能を総合的に育成することが求められる。
改善策	話すこと・聞くことを中心とした基礎的な実践的コミュニケーション能力の育成とともに、4技能を総合的に育成することを鑑みた指導の充実を図るため、現行の「コミュニケーション英語」について検討を行い、今後の指導の方向性を定め来年度からの実施に向け準備していく。

平成24年度 教育行政評価 No6 (自己評価)

主要事業名	スポーツ事業の開催と機会提供及び市民スポーツの支援	担当	部名	市民協働部
			課名	スポーツ推進課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	4 スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進
体系項目	(1) スポーツの振興
個別施策	① スポーツ団体の育成支援 ② 地域スポーツの展開と情報の発信

2 事業概要

目的	鹿嶋市のシンボルスポーツであるサッカーと武道を通じた地域間交流を図り、その中で市民にも大会への関わりを持ってもらう。また、スポーツ団体の支援を行うとともに身近な地域でスポーツを楽しむ環境をつくる。			
対象及び規模	対象	市民全般	規模	スポーツカレッジ15人、スポーツ教室1,085人

3 実績

<p>各種スポーツ活動やイベントの開催などを通じて、多様な交流が行われている。特に、シンボルスポーツ（サッカー・武道）の推進と、鹿島アントラーズや鹿島神宮などの観光資源の優位性を活かし、スポーツと地域（宿泊など）の活性化を図っている。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	鹿嶋市は、スポーツでの交流人口を増やし、まちの活性化を図るため今後もスポーツ大会の開催また誘致等を行っていく。
改善策	事業を推進するための組織の確立（コンベンションビューロ：H25、市内スポーツ支援組織の整備：～H26）、スポーツ施設整備計画の策定（平成31年度茨城国体、コンベンションビューロ、市内スポーツ施設の再編を踏まえて策定）

平成24年度 教育行政評価 No7 (自己評価)

主要事業名	各地区まちづくりセンター活動支援、芸術祭・市美術展覧会等の開催	担当	部名	市民協働部
			課名	まちづくり市民センター

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	4 スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進
体系項目	(2) 芸術文化活動の振興と文化財の保護
個別施策	① 地域に根ざした文化活動の創造

2 事業概要

目的	市民交流の推進を図るため、各地区まちづくり委員会に公民館活動事業を委託し、市民主体の活動を推進するとともに各地区まちづくり委員会とまちづくりセンターとで組織するまちづくり連絡協議会活動を通じて情報交換や研修会等を開催し、活動実践者の拡充を図る。また、市民の芸術文化活動の振興を図るため、芸術祭・市美術展覧会・市民ギャラリー企画展を開催し、鑑賞や成果発表の機会とするとともに、芸術文化団体等の育成や支援、芸術文化活動の指導者の発掘等を図る。			
対象及び規模	対象	市民	規模	66,449人

3 実績

	まちづくり事業については、毎年地区の課題を取り入れて各種事業を計画し実践している。一昨年東日本大震災による防災意識の高まりを受け実施した地域防災についての研修会等を活かし、地区防災マニュアルの作成や地区ごとの防災訓練などへの取り組みが図られている。また、各公民館における、自主サークルの文化活動と発表の場を設けるとともに、市全体としては、芸術祭や市美術展覧会等を通じて、文化芸術活動の普及を図っている。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	美術展覧会は運営関係者や出品者の高齢化が見られるため、事業の継続にあたり、新しい人材の掘り起こしや、後継者の育成等が課題である。また、公民館活動については、単一年度の事業だけでなく、中長期的な計画に基づく事業の実施が必要である。
改善策	美術展覧会等の事業のPRを様々なメディアを活用して幅広く知らしめ出品者の増加を図るとともに、文化協会や活動団体等にも後継者の育成等を呼びかけ、活動人口を増やしていく。また、公民館活動については、全体的な研修会や講座を通して、共通の地域課題についての研修や地域活動の支援を行うとともに、活動実践者の拡充を図る。

平成24年度 教育行政評価 No8 (自己評価)

主要事業名	神野向遺跡保存事業	担当	部名	教育委員会
			課名	教育総務課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	4 スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進
体系項目	(2) 芸術文化活動の振興と文化財の保護
個別施策	② 文化財の保護と活用

2 事業概要

目的	奈良時代から平安時代にかけての鹿嶋郡の郡役所跡である神野向遺跡は、大溝で囲まれた倉庫群（正倉院）や回廊で囲まれた郡庁建物が発見された全国でも貴重な遺跡で、国の史跡に指定されている。神野向遺跡を文化遺産として将来に残すために史跡として指定地を買い上げ、子どもたちの郷土学習や体験学習の場として、また、市民や遺跡を訪れる人々の憩いの場として史跡公園、生涯学習の場として整備活用していくことを目的としている。			
対象及び規模	対象	国指定史跡（神野向遺跡）	規模	73,607.01㎡（国指定面積）

3 実績

	公有化のための買収も約94%になり、あと少しである。土地の値段が安くなって売る方に不安の陰りが見える。全国的にも貴重な歴史遺産であること、市の財産として残り整備して歴史公園として生まれ変わる事等、郷土の歴史とともに理解してもらいながら事業を推進してきた。
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	国の史跡に指定されている土地についてはあと少しで公有化も終了できそうであるが、これまで指定に同意していなかった場所で指定にして買収を要望しているところがあり、今後どう進めていくのか課題である。
改善策	買収の希望のある方については随時調整しながら公有化に向けた方向で実施してきたが、遺跡の重要性や内容を知ってもらうために現地説明会や標識の設置など周知を行うと共に、歴史公園に向けて一般の意見を聞きながら検討していく必要がある。

平成24年度 教育行政評価 No9 (自己評価)

主要事業名	学校施設の改修と整備	担当	部名	教育委員会
			課名	教育総務課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(1) 教育施設の整備
個別施策	① 校舎及び園舎の改修・改築・耐震化の推進

2 事業概要

目的	平成21年度に大野中学校特別教室棟（南側校舎）の耐力度調査を実施した結果、耐力度が低いことから改築工事を予定した。しかし、今後の生徒数調査により、平成22年度以降より生徒数が減少傾向にあり、今後管理教室棟に余裕教室が見込めるため、特別教室棟内にある理科室や家庭科室などの機能を管理教室棟側に移設し、特別教室棟については解体・撤去し、校内教育施設の環境整備を図る。			
対象及び規模	対象	大野中学校生徒及び教職員	規模	516人

3 実績

平成21年度から平成23年度までに、耐震補強工事を優先的に実施し、市内小中学校施設の耐震補強工事は完了している。また、一部の小学校では、大規模改造工事により施設の改修を完了している。 ※大規模改造工事実施済み校（豊郷小：平成9年度、波野小：平成12年度、豊津小：平成20年度、平井小：平成22年度）	
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	各学校施設は、建築から約40年以上を経過し、施設内外や配管など老朽化が進んでいるため、各施設については大規模な改修工事が必要となってきているため、今後、計画的な大規模改造工事を推し進めていくことが重要となってきている。
改善策	現在、大規模改造計画（案）は策定されているが、この計画を再度見直しを図り、計画的な大規模改造計画を推し進めていく。

平成24年度 教育行政評価 No10 (自己評価)

主要事業名	社会教育施設の整備	担当	部名	市民協働部
			課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(1) 教育施設の整備
個別施策	④ 社会教育施設の整備充実

2 事業概要

目的	鹿嶋市が掲げる「まちの将来像」を実現するためには、「協働によるまちづくり」の推進が必要不可欠となる。その中で、社会教育施設（まちづくりセンター、鹿嶋勤労文化会館、スポーツ施設）は、「協働によるまちづくり」を実践する市民活動の拠点施設であり、市民が安心・安全に施設が利用できるよう計画的に整備及び修繕、改修を実施する。			
対象及び規模	対象	市民	規模	66,449人

3 実績

市内の社会教育施設及び社会体育施設は18施設であり、その内14施設は、築15年以上が経過している施設である。突発的な修繕や改修を要する箇所も多く存在しており、各施設管理者から要望も多く出ていることから、施設管理者と連携を取りながら整備を行ってきたところである。厳しい予算の中で、修繕や改修を行う優先順位を決定し、効率よく工事を実施していくことが必要である。	
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	各社会教育施設を巡回し、管理者からの意見要望を把握し調整しながら修繕を行う必要があるのは当然のことながら、大規模な修繕及び改修については、予算確保の面からも中長期的な修繕（改修）計画を作成し、計画に沿った整備を行う必要がある。
改善策	平成25年度は施設管理者や利用者からの意見を参考とするのはもとより、専門的な知識を有する改修が必要な場合は、建築コンサルタント等を活用し、調査を行い、修繕計画を作成する必要がある。

平成24年度 教育行政評価 No11 (自己評価)

主要事業名	安全・安心な子育て環境の整備	担当	部名	市民協働部・教育委員会
			課名	生涯学習課・鹿嶋っ子育て成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	① 安全・安心な子育て環境の整備

2 事業概要

目的	子どもたちに学習活動、スポーツ、文化活動及び住民との交流など、様々な体験活動を通して、健康で豊かな心を育むとともに、青少年相談員の活動による青少年の健全育成を目的とする。			
対象及び規模	対象	市民	規模	66,449人

3 実績

<p>放課後子ども教室は、平日の部を4小学校区、休日の部を10地区で開設しており、放課後、休日の子どもの安全・安心な居場所として、また、地域との交流の場として機能した。青少年相談員の活動は、相談員会議(年5回)、班別活動(28回)、早朝、夜間活動(各5回)、祭り等特別一斉活動(3回)、各小学校・あいさつ声かけ運動(年2回)、脱法ハーブについての研修など、相談員研修(年2回)を実施。さらに青少年相談員の活動を市民にお知らせするために市広報に活動報告として年3回掲載した。</p> <p>認定こども園の準備については、市民福祉部との会議、説明会へ参加し、様々な課題を整理しながら認定こども園設置について検討してきた。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	安全・安心な居場所の確保のためには、各学校の実態を把握しながら、機関と連携を図る必要がある。地域の実態に合わせた事業実施に向け、事前の協議を十分に行い、教室の開設を進めることが重要である。また、健全な環境整備のため、巡回活動の継続と共に、店舗等と連携を図りながら、環境整備を進めていく。
改善策	子ども教室の開設について、現場の声を聞きながら、運営委員会で実態に合わせて、運営方法について検討する。また、相談員の活動については、青少年への声かけについて研修を行うなど、一層の知識の向上を図るとともに、店舗等に対し、引き続き条例の周知を行っていく。

平成24年度 教育行政評価 No12 (自己評価)

主要事業名	子育て講演会及び心とからだの講演会の開催	担当	部名	市民協働部
			課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	② 家庭の教育力の充実

2 事業概要

目的	保護者に対し、家庭での子どもとの関わりなど家庭教育の重要性を啓発するとともに、子育てに関する悩みや不安について、保護者が一人で抱え込まず、相談し合う機会を提供する。また、中学生に対し、自分自身を大切にするための心を育成することを目的とする。			
対象及び規模	対象	小中学校入学前児童生徒の保護者及び中学校生徒並びにその保護者	規模	4,649人

3 実績

<p>小・中学校子育て講演会は、新年度入学する児童・生徒の検診や学校説明会に合わせ、その保護者を対象に家庭教育の重要性を考える機会として実施している。講座終了後は、アンケートを実施し、講演会参加の感想や講演のテーマ、市に対する要望などについて把握し次回の参考としている。また、心とからだの講演会については、中学生が自分自身や命、性について考える機会として実施している。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	保護者や生徒の悩みや現状を把握しながら、講演会の内容等を検討し、実施していく必要がある。
改善策	アンケートにより保護者のニーズの把握を行うとともに、講師や学校との事前協議を行い、保護者のニーズや子どもたちの現状に沿った講演内容や実施方法の検討を行う。

平成24年度 教育行政評価 No13 (自己評価)

主要事業名	教職員の資質の向上	担当	部名 鹿嶋市教育委員会	課名 鹿嶋っ子育成課
-------	-----------	----	----------------	---------------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	③ 教職員の資質の向上

2 事業概要

目的	教職員の専門職としての技能向上、一定の教育活動を保障するための支援及び効率的で正確な事務処理を行うための学校管理体制の構築を支援する。			
対象及び規模	対象	教職員・保護者	規模	教職員429人、幼小中学生6,032人の保護者

3 実績

<p>地域の教育力向上のため市民対象の講座を行うとともに、教職員対象の研修の特化を図った。特に師範塾受講者数が471名（平成23年度）から817名（平成24年度）に増加していることから、自らのスキルアップに努めたいと考える教職員の専門職としての技能向上に寄与している。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	指導主事による指導時間の確保。また師範塾においては、研修講座によっては参加者数のバラツキが見られる。講師・スタッフ不足及びコンパクト化による質の向上の観点から、鹿嶋市師範塾の常設講座は12～13講座が理想である。参加者数や広がりがない研修講座の見直しが必要である。
改善策	講座受講者の要望や指導主事の学校訪問の成果を踏まえて、必要性及び有効性が見込まれる講座及び研修を設定する。

平成24年度 教育行政評価 No14 (自己評価)

主要事業名	高塚奨学基金制度の充実	担当	部名 教育委員会	課名 教育総務課
-------	-------------	----	-------------	-------------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	④ 教育機会の保障

2 事業概要

目的	平成7年、高塚正義氏からの3億円の寄附を原資に、市独自の高塚奨学基金を設けた。この奨学基金をもとに、優良でありながら、経済的な理由により修学が困難な生徒・学生に無利子で学資（奨学金）を貸与することにより、修学を資金面で支援し、有為な人材の育成を図る。			
対象及び規模	対象	市内に1年以上住民登録を有する者の子弟	規模	30人

3 実績

<p>平成23年度から次年度の募集を行い内定という形で奨学生を早期に決定できるよう規則の改正を行ったことにより、平成24年度の当初の募集人員は25人おり、奨学生決定者は23人であった。募集定員30人に満たないため、追加募集を行い、6人の奨学生を追加決定し、平成24年度の奨学生合計人数は29人となり、ほぼ予定していた募集人員を決定した。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	募集時期の変更に伴い、希望者の申し込み漏れをなくすため、募集時期の周知徹底が必要である。また、返還滞納額が増加傾向にあり、滞納者への返還方法など個別に考えていく。
改善策	奨学金募集の周知方法については、広報かしま、市HP、エフエムかしま、教育かしま等、可能な限り広報媒体を活用していく。また、返還滞納対策については、定期的な督促状の送付や臨戸訪問の実施などを行う。

平成24年度 教育行政評価 No15 (自己評価)

主要事業名	教育委員会機能の強化	担当	部名	教育委員会
			課名	教育総務課・鹿嶋っ子育て課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	⑤ 教育委員会機能の強化

2 事業概要

目的	教育委員会が地域課題を理解するための体制強化を図ることを目的とする。			
対象及び規模	対象	市民	規模	66,449人

3 実績

<p>平成24年度は、教育委員会会議（定例会議及び臨時会議）を開催し、教育に関する43議案を審議し可決され、その他報告事項が12件あったことについて、市ホームページに掲載した。また、校長会・研修会などを開催し、教育委員会と学校との連携強化を図ってきた。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	教育委員会から各学校への指示・伝達等が実行されているか、検証などを行うことが必要である。
改善策	定期的な各学校の巡視や意見交換を綿密に行い、さらなる連携強化を図る。